

## 学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	笹山 健作
2. 審査委員	主査：（岡山大学教授） 足立 稔 副主査：（鳴門教育大学教授） 梅野 圭史 委員：（岡山大学教授） 河田 哲典 委員：（岡山大学教授） 鈴木 久雄 委員：（岡山大学教授） 松枝 睦美
3. 論文題目	青少年の体力づくりに関する教育実践学的研究
4. 審査結果の要旨	<p>教科教育実践学専攻生活・健康系教育連合講座 笹山健作 から申請があった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。</p> <p>論文審査日時：平成27年2月16日（月） 14時00分～14時30分          場所：岡山大学教育学部 本館1階 112室</p> <p>1. 学位論文の構成と概要</p> <p>序論</p> <p>第1節 研究の背景</p> <p>第2節 研究目的</p> <p>第3節 先行研究の概要</p> <p>第4節 研究方法</p> <p>第5節 本研究の構成</p> <p>第1章 体力が低い青少年の身体的・精神的・社会的特徴</p> <p>第1節 体力と身体活動量との関連性</p> <p>第2節 体力とメタボリックシンドローム危険因子との関連性</p> <p>第3節 体力と学業成績との関連性</p> <p>第4節 体力と形態，生活習慣，メンタルヘルスとの関連性</p> <p>第5節 部活動の所属別による体力について</p> <p>第2章 スロージョギングを教材とした持久走についての実践的研究</p> <p>第1節 小学生を対象とした持久走の検討</p> <p>第2節 中学生を対象とした持久走の検討</p> <p>第3節 高校生を対象とした持久走の検討</p> <p>終章</p> <p>第1節 総括</p> <p>第2節 結論</p> <p>第3節 今後の課題</p>

各章ごとの論文概要は以下に示す通りである。

本論文では、小学生、中学生、高校生期の青少年を対象に、第一に体力と身体活動量、メタボリックシンドローム (MetS) 危険因子、学業成績、メンタルヘルスとの関連性を検討するとともに、部活動の所属別による体力の特徴を検討することで、体力が低い青少年の身体的・精神的・社会的特徴を多面的に明らかにすることを目的とした。第二に、自分の体力に応じてゆっくり行うスロージョギングの教材を用いた持久走の授業を実践し、持久走に対する態度変化を検討するとともに、その態度変化を体力の高い者と体力の低い者に分類して比較検討することを目的とした。

序論では、青少年の体力の現状や体力が低い青少年の特徴についての背景、学校体育における持久走の授業実践についての背景を記すとともに、これらの先行研究について概観した上で本研究の目的および方法、全体の構成について記した。

第1章第1節では、小学4年生と中学2年生を対象とし、1日歩数と活動強度により分類した活動時間を身体活動量の指標として測定し、それらの指標と新体力テストの結果との関連性を検討することで、体力が低い小中学生の身体活動量の特徴を検討した。その結果、体力の低い小中学生は身体活動量が低く、かつ相対的に強度の強い活動時間が少ないことが明らかとなった。

第1章第2節では、小学4年生を対象にMetSリスクスコアと有酸素性体力との関連性について検討することで、体力が低い小学生のMetSリスクスコアの特徴について検討した。その結果、有酸素性体力の高い児童と比べて低い児童は腹囲、腹囲身長比、中性脂肪、収縮期血圧が高く、高比重リポ蛋白コレステロールが低いこと、MetS危険因子6項目を総合したMetSリスクスコアが高いことが明らかとなった。

第1章第3節では、中学生を対象に新体力テスト8項目で評価した体力と指導要録9教科での評価を指標とした学業成績との関連性を検討し、体力が低い中学生の学業成績の特徴を検討した。その結果、体力の低い中学生は学業成績が低いという関連性が明らかとなった。

第1章第4節では、中学生を対象に体力と形態、生活習慣、メンタルヘルスとの関連性を多変量解析の手法を用いて多面的に検討することを通して、体力が低い生徒の特徴を多面的に検討した。その結果、体力が低い男子中学生は肥満度が高いこと、就寝時刻が遅いこと、運動時間が短いこと、自己効力感が低いこと、不安傾向が高いことが明らかとなった。

第1章第5節では、中学2年生を対象に運動部、文化部、無所属といった部活動の所属別による体力を検討し、体力が低い中学生の部活動の所属状況について検討した。その結果、運動部に所属していない中学生は、男女ともに体力が低く運動時間が短いことが明らかとなった。

第2章第1節では、研究1でスロージョギングの授業を1時間行い、小学1年生から6年生の児童を対象に行い、授業の前後で持久走に対するイメージを比較検討するとともに、研究2では小学5年生を対象に、3時間の単元でスロージョギングによる持久走の授業を行い、単元の前後で持久走に対するイメージと20mシャトルランで評価した全身持久力を比較検討した。その結果、これらの授業実践は持久走に対するイメージを肯定的に変化させる可能性が示され、中でも運動が嫌いで、肥満度が高い児童においてその傾向が顕著であることが示された。また、体力が低い児童ほどスロージョギングの単元後に20mシャトルランの回数が増えることが明らかとなった。

第2章第2節では、中学1年生を対象に、スロージョギングを教材とした5時間の単元で持久走の授業を実践し、単元前後の態度変化を計有酸素性体力の高い生徒と低い生徒に分類して比較検討した。その結果、この授業実践は、体力の高い生徒だけではなく体力の低い生徒においても、持久走に対して肯定的な態度変化を示すことが明らかとなった。

第2章第3節では、スロージョギングによる授業実践の中に、運動の前後で評価する気分や計算能力の変化を生徒自身が体験することを含む5時間の単元計画で授業実践を行ったときの単元前後での態度変化を有酸素性体力の高い生徒と低い生徒に分類して比較検討した。その結果、この授業実践は、体力の高い生徒だけではなく体力の低い生徒においても持久走に対して肯定的な態度変化を示すことが明らかとなった。

終章では、本研究論文全体に関する総括、結論、今後の課題について記し、本論文の結論として、「体力が低い青少年は、身体活動量が低くかつ相対的に高強度の身体活動量が低いこと、MetSのリスクスコアが高いこと、学業成績が低いこと、自己効力感が低く不安傾向が高いこと、運動部に所属していない傾向が強いといった身体的・精神的・社会的特徴が明らかとなった。また、青少年におけるスロージョギングを教材とした持久走の授業実践は持久走に対する意識や態度を肯定的に変化させることが示唆され、中でも体力の低い青少年に対してその効果が顕著であること」が示された。

## 2. 審査経過

審査委員5名は提出された学位論文を精読後、平成27年2月16日（月）に岡山大学教育学部本館202・203室にて公聴会を実施した。公聴会に引き続き、同112演習室にて審査を行った。

### (1) 論文の独創性について

本論文の独創性は、これまで十分なエビデンスのなかった体力が低い青少年の身体的、精神的、社会的特徴を疫学的方法を用いた客観的指標によって示している点である。このことから、青少年が健全に成長していくための基盤である体力の重要性や意義が明らかになった。また、青少年の体力づくりを図る一つ的手段として、小学生、中学生、高校生の児童・生徒を対象に、スロージョギングの教材を用いた持久走を実践し、その有用性を体力指標や意識、態度変化の観点から明らかにした。

### (2) 論文の発展性

本論文では、体力と身体的、精神的、社会的特徴との関連を横断的方法で明らかにしている。今後は縦断的方法を用いて、これらの関連の因果関係を検討する方向性が考えられる。この因果関係を明らかにすることができれば、そのメカニズムの解明に発展する可能性がある。また、教育実践学的検討では、本研究で用いた体力向上のための授業づくりの考え方を、体づくり運動だけでなく、他の運動領域にも発展させていくことができると考えられる。

### (3) 学校教育実践への貢献あるいは社会的貢献

本論文の学校教育実践への貢献は、スロージョギングの教材を用いた持久走の授業実践の検討から、持久走関連の教材開発に新たな視点を提供したことである。また、体力は青少年の健やかな成長を育む基盤となることを示す本研究の知見が、学校教育実践や家庭、地域の場に活用できることから、学校教育実践への貢献だけでなく、社会的な貢献も考えられる。

## 3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 笹山 健作 の提出した学位論文が博士(学校教育学)の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。